

令和6年 お茶づくり技術情報 (No.3)

2024年4月1日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象と生育

1) 一番茶の萌芽

(1) 茶業試験場内の作況調査園（定点調査園、品種：やぶきた）において、3月30日に萌芽期を迎えた。前年(3月27日)より3日遅く、前5か年平均(3月28日)より2日遅い萌芽期となった。

(2) 茶業試験場内のさえみどり（慣行栽培園）では、3月27日に萌芽期を迎えた。

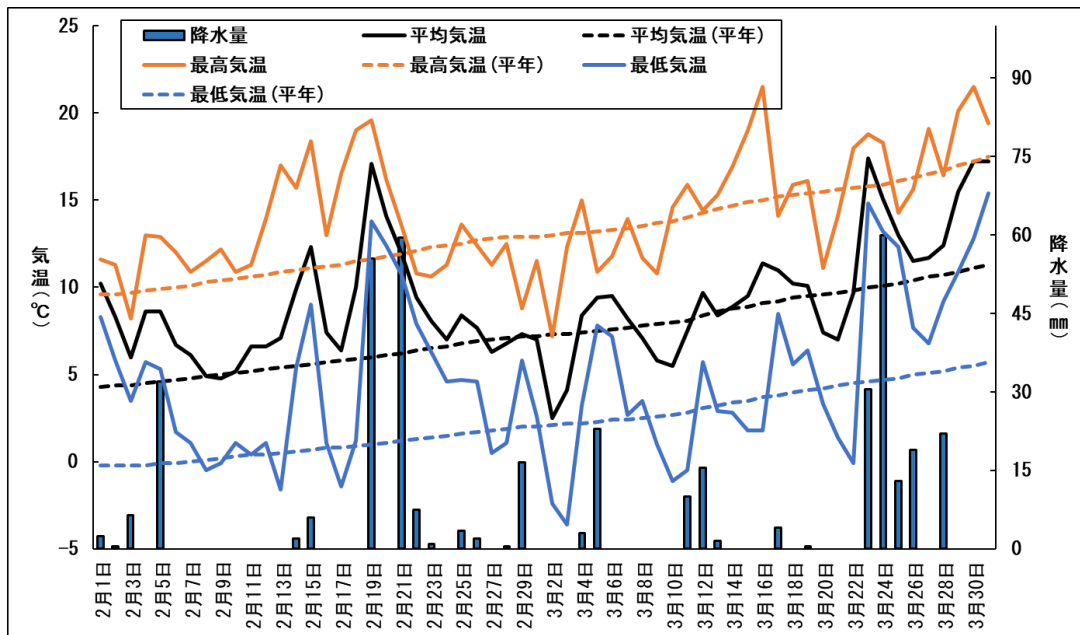


写真1 『やぶきた』の一番茶芽
(撮影：2024年3月30日)



写真2 『さえみどり』の一番茶芽
(撮影：2024年3月27日)

2) これまでの気象 (2月～3月、嬉野)



(1) 平均気温は、2月は8.3℃(平年5.6℃)、3月は10.0℃(平年8.9℃)であった。

(2) 3月の最低気温は、2,3日・10,11日・22日が0℃を下回った。

(3) 3月の降水量は、上旬26.0mm(平年比58%)、中旬31.5mm(平年比60%)、下旬144.5mm(平年比259%)であった。

3) 今後の気象の見通し

■ 1か月予報（気象庁、2024年3月28日発表）

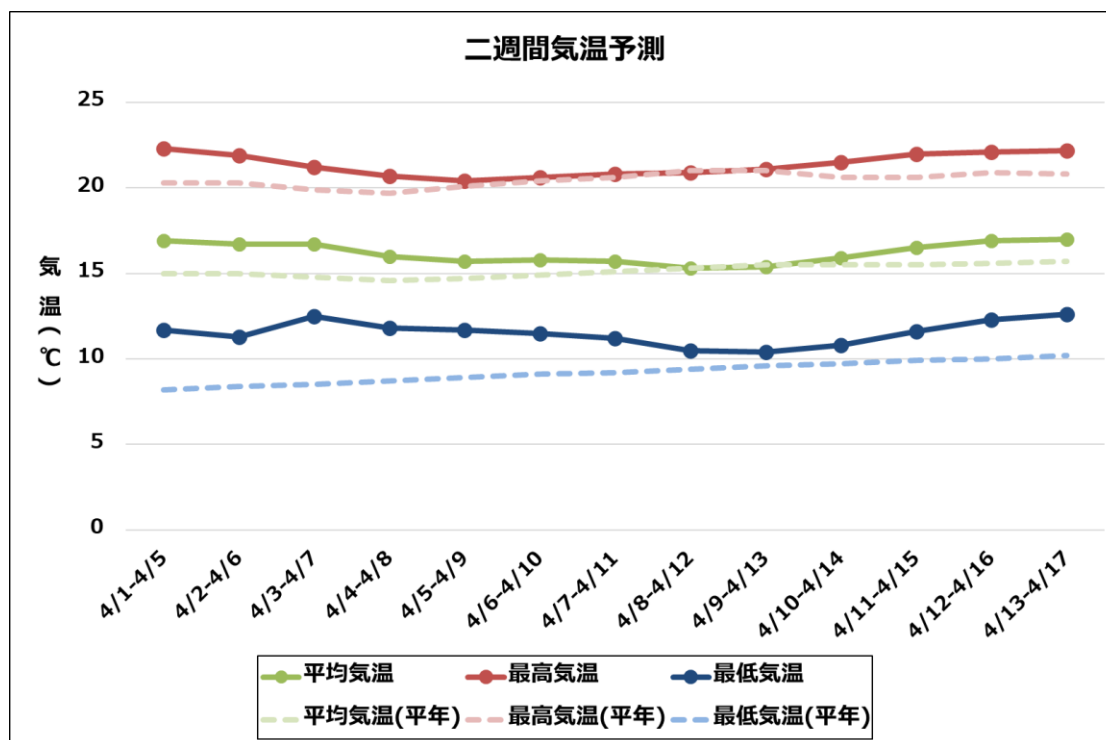
向こう1か月の天候の見通し

九州北部地方（山口県含む）（03/30～04/29）

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並20 高70% 高い見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み

- （1）向こう一か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高く、特に期間の前半はかなり高くなる可能性がある。
- （2）低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう一か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。

■ 2週間気温予報（気象庁、「確率予測資料」より）

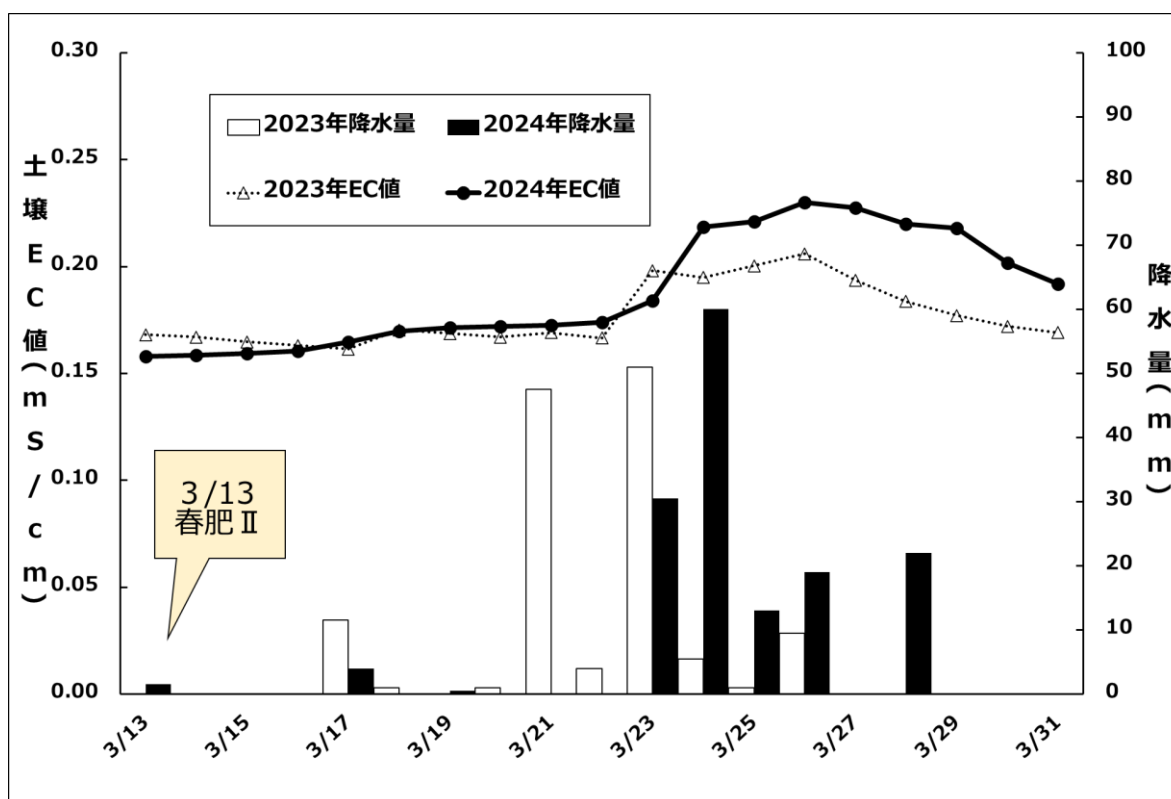


注) 予測対象要素の平均気温、最高気温、最低気温は、それぞれ、日平均気温、日最高気温、日最低気温の半旬移動平均値。平均期間は各グラフのラベルの日付。

- （1）今後二週間の平均気温および最高気温は、平年並か高い予想となっている。
- （2）今後二週間の最低気温は、平年と比べ高く、特に期間の前半はかなり高く推移する予想となっている。

2. 今後の管理

1) 施肥管理



注) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25 cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す

- (1) 土壌 EC は、春肥Ⅱ施用後しばらく変化がみられなかったが、3月23日～25日の降雨後上昇している。
- (2) 芽出肥は一番茶摘採の30～40日前を基本とし、施肥後は土壌と混和する。
- (3) 分施する場合は最終施肥として速効性肥料（硫安など）を摘採14日前頃（2葉期）に行う。

2) 被覆管理

- (1) 資材は、遮光率70%程度で、穴・汚れ・異臭のないものを使用する。
- (2) 被覆開始は、新芽の葉数や生育速度を考慮し、摘採時期より判断する。基本は2.5～3.0葉期とし、被覆期間は10日間程度とする。極端な若芽への被覆は減収につながるため避ける。また、高温等で生育が進むことが予想される場合には早めの被覆を心掛ける。
- (3) 直前の気象条件により新芽生育は異なるため、気象庁の2週間気温予報の確認、茶園巡回で芽の観察をこまめに行うなど、適期の被覆開始となるように心がける。
- (3) 被覆後は、風による煽りや擦れによる葉傷みが発生しないように、資材の固定を確実にを行う。
- (4) 被覆資材の除去は、摘採の直前が望ましく、新芽がなるべく日光にあたる時間を少なくし、色戻りを避ける。除去時は持ち上げるように外し、葉を傷めないようにする。